

AIR on air

2020/12/11(Fri) - 12/12(Sat)

オンラインシンポジウム
Online Symposium

What is the current state of affairs of **Artists in Residence** in Japan and in Europe under the pandemic ?

コロナ禍の日本や欧州における
アーティスト・イン・レジデンスの現状とは？

AIR ON AIR オンラインシンポジウム

会場： オンライン上 (Zoom)

料金： 無料

言語： 日本語／英語 (同時通訳付)

#aironairjapan

ヴィラ九条山、ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川、京都芸術センターとオランダ王国大使館は、AIR Network JapanとAIR_Jのご協力のもと、COVID-19感染拡大後から約1年経った現在におけるアーティスト・イン・レジデンスセクターの状況について議論するオンラインシンポジウムを共同開催します。

シンポジウムでは主に、ヨーロッパにおける協働のあり方、どのようにこの状況から前進していけるのか、これからのアーティスト・イン・レジデンス (AIR) や国際プロジェクトのあり方について議論します。本シンポジウムは、ヨーロッパでの現状を紹介するだけでなく、日本からの登壇者を迎え、日本の現状にも言及しながら、共に考える双方向性のあるものになるでしょう。

主催する4機関は、4ヶ国のさらなる連携促進のために本シンポジウムを企画しました。フランス、ドイツ、日本、オランダ王国各国や他の国からの登壇者を迎え、12月11日と12日の2日間にわたり開催します。

司会： 石井潤一郎 (アーティスト)

オブザーバー： 日沼禎子 (AIR Network Japan事務局長)

主催

ヴィラ九条山

(担当: 鴻池 臯)

satsuki.konoike@institutfrancais.jp

ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

(担当: 山岡純子)

Junko.Yamaoka@goethe.de

京都芸術センター

(担当: 勝冶真美)

katsuya@kac.or.jp

オランダ王国大使館

(担当: バス・ヴァルクス)

bas.valckx@minbuza.nl

協力:

AIR Network Japan, AIR_J

AIR ON AIR ◆ オープニングセッション

◆ 12/11(金)

日本時間：19:00-20:30

オープニングセッション 『AIR on air - レジデンスをめぐる 欧州と日本の現状』

主催者の開会挨拶のほか、コロナ禍が

ヨーロッパと日本のレジデンスセクターにどのような影響を与えたかを中心に、欧州と日本の専門家がレジデンスセクターの現状についてプレゼンテーションを行います。

また、石井潤一郎氏の司会のもと、参加者との質疑応答が予定されています。

石井潤一郎

美術作家。2004年より、アジアから中東、ヨーロッパを中心に、20カ国以上で作品制作・発表。国際展「10th International ISTANBUL BIENNIAL : Nightcomers(トルコ '07)」、「4th / 5th Tashkent Ale(ウズベキスタン / '08 / '10)」、「2nd Moscow Biennale for Young Art(ロシア '10)」、「ARTISTERIUM IV / VI(グルジア / '11 / '13)」参加他、個展、グループ展多数。現在は ICA Kyoto で国際業務を担当する他、KIKI gallery(京都)で展示会の企画・運営も行う。
www.junichiroishii.com/

パネリスト:

- ヴォルフ・イーロ (ゲーテ・インスティトゥート ミュンヘン本部 文化部門長/ドイツ)

www.goethe.de/en

ヴォルフ・イーロは、ケンブリッジ大学で比較文学を、オックスフォード大学とモスクワ大学でスラブ学を学んだ。

ミュンヘン・ルードヴィヒ・マクシミリアン大学(LMU)にて、ユダヤ系ロシア人作家イサーク・バーベリについて博士号を取得。2004年よりゲーテ・インスティトゥートに勤務。2009年~2014年初頭まで、モスクワのゲーテでロシア全体のプログラム責任者を務めた後、イスラエルのテルアビブのゲーテで館長を務めた。2019年よりミュンヘンのゲーテ・インスティトゥート本部にて文化部門長を務めている。

- ファニー・ロラン (アンスティチュ・フランセ・パリ本部 レジデンス部門責任者/フランス)

www.institutfrancais.com/en

2013年より、アンスティチュ・フランセのレジデンス部門責任者として、フランスを始め世界中のアーティスト・イン・レジデンスに招聘されるアーティストへのサポートや新規レジデンスプログラムにおける海外向けフランス外交ネットワークの発展に携わる。国際文化協働を専門とし、視覚芸術やパフォーマンス・アート、映画に関わる文化機関やアーティストに向けた支援にも多数関わった経験をもつ。

- 北村信幸 (京都市 文化芸術政策監)

www.city.kyoto.lg.jp

- テオ・ペータス (在日オランダ王国大使館 全権公使)

www.orantowatashi.nl/

立教大学を卒業、1992年にオランダ王国外務省に入省。ジャカルタ、東京、ブリュッセルへの赴任を経て、セネガルにあるオランダ王国大使館の大使に就任した。そして、2019年8月、大使館全権大使として日本に戻る機会を得た。さらに広報・政治・文化部長として日本におけるオランダ政府の対外文化政策を総括している。

プレゼンテーション:

- パスカル・ブリュネ (Relais Culture Europe ディレクター/フランス)

www.relais-culture-europe.eu/

Relais Culture Europe (フランス)は、ヨーロッパ協働事業を請け負い、革新できるような能力の開発支援を目的とする機関。ディレクターであるパスカル・ブリュネ自身も、今日のヨーロッパにおける文化アイデンティティ確立について模索しつつ、国際的な文化協力事業などに携わる。

- 朝倉由希 (文化庁地域文化創生本部 総括・政策研究グループ 研究官)

www.bunka.go.jp/

京都大学文学部卒業。東京藝術大学音楽環境創造科を経て同大学大学院応用音楽学博士後期課程修了。博士号取得。2017年4月より文化庁地域文化創生本部研究官として、文化政策の国際比較研究に携わる。

- 小田井真美 (さっぽろ天神山アートスタジオAIRディレクター、AIR Network Japan 副代表)

www.airnetworkjapan.com/
www.tenjinyamastudio.jp/

Trans Artist(オランダ)で文化政策と AIRネットワークの研修とリサーチを経て帰国。国内複数のAIR事業運営、アーティストの移動のためのポータルサイトMove Arts Japan(運営:コマンド N)、VISUAL ARTS FOCUS(フランス)招聘など。そのほか、国内外AIR事業とその背景に関するリサーチ及びAIR事業設計や環境整備に多数関わる。現在は、さっぽろ天神山アートスタジオを拠点にしたAIR運営を軸にアーティストの活動をアーカイブするプロジェクト「アートとリサーチセンター」を運営している。

AIR ON AIR ◆ セッションI

◆ 12月12日(土)

日本時間 : 12:15-14:00

イントロダクション

シンポジウム2日目は、主催者によるプログラム概要紹介や、司会者・石井潤一郎氏による進行説明から始まります。

『コロナ禍におけるAIR戦略』

新型コロナウイルス感染拡大に際し、アーティスト・イン・レジデンスはどのように対応したのか？ また、コロナ禍のレジデンスの新しいかたちや方法にはどのようなものがあるのか等、意見を交わします。

パネリスト:

- **ベネディクト・アリオ**
(シテ・アンテルナショナル・デ・ザール(パリ国際芸術都市)館長/フランス)
www.citedesartsparis.net/en/

シテ・アンテルナショナル・デ・ザール(フランス)は仏最古のアーティスト・イン・レジデンスプログラムであり、多種多様な芸術分野や国籍をもつアーティストを毎年300人ほど受け入れている。現館長のベネディクト・アリオは、アンスティチュ・フランセパリ本部で《Cultural Seasons》プログラムに携わった経験をもつ。

- **クラウス・ハイメス**
(バンガロー・レジデンシー館長、ゲーテ・インスティトゥート・インド/ドイツ・インド)
www.goethe.de/ins/in/en/sta/ban/ueb/bar.html
www.goethe.de/ins/in/en/sta/ban.html

1975年、西ドイツのメンヒェングラードバッハ生まれ。インド・バンガロールのゲーテ・インスティトゥート/マックス・ミュラー・パヴァンの館長として、ドイツとインドのアーティストのためのAIRプログラム「bangaloREsidency」における様々なプログラムを率いている。「bangaloREsidency」では、独印の40以上の文化パートナーと協力し、これまで160人以上のアーティストをサポートしてきた。バンガロール赴任前は、在上海ドイツ総領事館の領事兼文化教育部長を務めた。ゲッティンゲン、アムステルダム、ベルリンで歴史、法律、哲学、国際関係学、政治学を学び、2002年に卒業。2008年に政治哲学の博士号を取得。それ以前はベルリンでビジネスコンサルタントとして活躍し、上海赴任前はゲーテ・インスティトゥート事務局長のパーソナルアドバイザーも務めた。

- **小田井真美**
(ざっぽろ天神山アートスタジオAIRディレクター、AIR Network Japan副代表)
www.airnetworkjapan.com/
www.tenjinyamastudio.jp/

Trans Artist(オランダ)で文化政策とAIRネットワークの研修とリサーチを経て帰国。国内複数のAIR事業運営、アーティストの移動のためのポータルサイトMove Arts Japan(運営:コマンドN)、VISUAL ARTS FOCUS(フランス)招聘など。そのほか、国内外AIR事業とその背景に関するリサーチ及びAIR事業設計や環境整備に多数関わる。現在は、ざっぽろ天神山アートスタジオを拠点にしたAIR運営を基軸にアーティストの活動をアーカイブするプロジェクト「アートとリサーチセンター」を運営している。

- **坂本 泉 (AIRYディレクター)**
www.air-y.net/

アーティスト・イン・レジデンス山梨[AIRY]代表。
AIRYは2005年に活動開始以来、36カ国以上から150名のアーティストを迎えている。

- **ミリアム・ウィストライヒ (ホテル・マリア・カペル クリエイティブディレクター/オランダ)**
www.hotelmariakapel.nl/

オランダのホールンにあるレジデンス・プログラムも運営しているギャラリー、ホテル・マリア・カペルのクリエイティブディレクター。アーティストのフリート・メンズハートとマヤ・ベカンと共に、資本主義社会において思いやりのある施設はどのように構築できるかを探る実験的なプログラム「Slow Burn(スロー・バーン)」を展開した。2021年からは、ノルウェーのオスロにある展示スペースUKSのディレクターを務める。

AIR ON AIR ◆ セッション2

◆ 12月12日(土)

日本時間 : 14:30 - 16:00

『パンデミック中のアーティストの 創作活動とレジデンス』

コロナ感染拡大による渡航制限のもと、各地で「オンライン・レジデンス」が登場しています。
パンデミック中、アーティストはどのようにレジデンスへの参加を経験してきたのか？
また、アーティストは新しいレジデンス形態の出現をどのように捉えているのか等、意見を交わします。

パネリスト:

- エリック・ミン・クオン・カスタン (振付師、造形作家/フランス)

www.shonen.info/

振付師で造形作家でもあるエリック・ミン・クオン・カスタンは、国立演劇センター《コメディ・ド・ヴァランス》のアソシエート・アーティスト。ダンスカンパニー《Shonen(少年)》と共に、運動する身体や映像、ニューテクノロジー、知覚を結びつけるような作品を多数制作。《Hiku/引く》プロジェクトでは、アンヌ＝ソフィ・テュリオン共に2020年度ヴィラ九条山のレジデンスプログラムに選出される。

- レア・レッツェル (アーティスト・花火師/ドイツ)

www.lealetzel.de/

www.goethe.de/ins/jp/ja/sta/kyo/res/stj/s19/lel.html

レア・レッツェルは、ドイツ・ケルンを拠点に、マルチメディアのアーティスト、演出家、花火師として活躍している。ギーゼン大学でハイナー・ゲッペルスのもと応用演劇学を、また、ケルン・メディア大学でメディアアートを学んだ。2015年、花火師の国家資格を取得。これまで、様々な国際展に参加しているほか、ヨーロッパを中心にパフォーマンスも行っている。2019年、ヴィラ鴨川にレジデンス滞在。2020年初めより、フランクフルトのマックス・プランク経験美学研究所の招聘研究員。花火研究者の故・清水武夫氏が考案した「花火譜」にインスピレーションを得て、現在、京都在住のオルガン奏者佐川淳氏とともに、日独間で新たな舞台芸術作品を創作中。

- 安野太郎 (作曲家/日本)

www.taro.poino.net/

作曲家。東京音楽大学作曲科卒業。情報科学芸術大学院大学(IAMAS)修了。自作自動演奏機械の演奏による『ゾンビ音楽』など独自の視点でテクノロジーと向き合う音楽を制作。第58回ヴェネチア・ビエンナーレ日本代表作家の一人。

- ウィリー・ウォン&フロア・ホフマン (アーティスト/オランダ)

www.designdoesntexist.com/

www.floorhofman.com/

www.paradiseair.info/

フロア(オランダ)はドキュメンタリー映像作家で、個人の自省や好奇心に焦点を当てて追求する情熱的なインタビュアー。ウィリー(台湾)は、人類学視点を併せ持つデザイナーで、物事や人々のふるまいへの洞察を探究している。デザイナー・デュオとして活動する彼らは、異なる文化背景を持つグループと共同制作を行い、感情の現れ方やその背後にある意味を視覚化する。

AIR ON AIR ◆ セッション3

◆ 12月12日(土)

日本時間：16:30-18:00

『レジデンスがもたらす変革』

アーティスト・イン・レジデンスは、どのようにAIRを取り巻く環境や社会全体の変化に貢献できるのか？
日欧の文化関係者が今後のAIRのあり方と機能について議論します。

パネリスト:

- サンドリーナ・マルタンズ(Le Carreau du Temple 館長 / フランス)

www.carreaudutemple.eu/

Le Carreau du Temple(フランス)は、パリにある文化・スポーツ施設。一般企業のもとでのアーティスト・イン・レジデンスプログラムを主導する。

現館長であるサンドリーナ・マルタンズは、プロヴァンス地方マルセイユの欧州文化首都支部のプロジェクト責任者として、『Les Ateliers de l'Euro-Méditerranée (欧州地中海アトリエセンター)』と連携した経験をもつ。

- ピア・エンテンマン(Tarabya Cultural Academy, ゲーテ・インスティトゥート・イスタンブール / トルコ)

www.kulturakademie-tarabya.de/

www.goethe.de/en/kul/ser/rep/kul.html

ピア・エンテンマンは、2017年4月より、トルコ・イスタンブールのゲーテ・インスティトゥートが運営するアーティスト・イン・レジデンス「タラビヤ文化アカデミー」の芸術監督を務めている。

同アカデミーでは、あらゆる文化芸術分野のプロフェッショナルを対象とし、ドイツとトルコのアーティストの交流を促進している。2011年より、ブリュッセルのゲーテ・インスティトゥートの文化部で様々な文化プログラムを手掛けた後、パリのゲーテでネットワーク・コーディネーターを務め、その後、ゲーテ・インスティトゥートの前総裁クラウス＝ディーター・レーマン氏のパーソナルアドバイザーも務めた。

- 黒田大スケ (対馬アートファンタジア / 日本)

www.artfantasia.asia/

彫刻家。歴史・環境・身体の中に生じる目に見えない幽霊のような存在に形を与えるように作品を制作している。近年は東アジアの彫刻概念をテーマに制作に取り組む。

作品制作のほかに、国境の島「対馬」で各国のアーティストと住民の有志が協働で開催する芸術祭「対馬アートファンタジア」のディレクションなどに携わる。

- ハイディ・ヴォーゲルス (DutchCulture | TransArtists / オランダ)

www.transartists.org/

www.dutchculture.nl/

ン・レジデンス団体と連携し、情報や経験の相互交換を強化し、アーティスト・イン・レジデンス・プログラムとパートナー団体との間の(国際的な)コンタクトやコラボレーションの確立に努めている。

TransArtistsはオランダ国際文化協力センター(ダッチ・カルチャー)に属し、アムステルダムを拠点に活動している。

◆ 12月12日(土)

日本時間：18:00-18:30

クロージングセッション

オブザーバー・日沼禎子氏と司会の石井潤一郎氏が、2日間にわたるシンポジウムでの議論をもとに、考察や所見を参加者と共有します。
本シンポジウムは、京都芸術センター館長の建畠 哲氏の挨拶をもって閉会となります。

パネリスト:

- 日沼禎子 (AIR Network Japan 事務局長)

www.airnetworkjapan.com/

女子美術大学教授。国内外のアーティスト・イン・レジデンス、アーティストの国際的活動のプラットフォーム形成を専門とする。KESEN AIRプログラムディレクター。

- 建畠 哲氏 (京都芸術センター館長)

www.kac.or.jp/

京都芸術センター館長。美術評論家、詩人。

「ヴェネチア・ビエンナーレ」日本館コミッショナー(1990、93年)、「横浜トリエンナーレ2001」アーティストック・ディレクター、「あいちトリエンナーレ2010」芸術監督など、多くの国際美術展を組織し、アジアの近現代美術の企画にも多数参画。

AIR ON AIR オンラインシンポジウム

主催

ヴィラ九条山



京都東山の丘の上に建てられたヴィラ九条山は、日本に関連するプロジェクトを行いたいと願う多分野のアーティストを、新進か著名かに関わりなく受け入れてきたレジデンス施設です。1992年の設立以来、400名近くのアートが滞在し、芸術と知識の交流を通して、多文化間の対話や現代の創造活動を推進することに寄与してきました。

今日のヴィラ九条山は、仏外務・国際開発省に属する文化機関であるアンスティチュ・フランセと協働して運営されている、フランスの国外アーティスト・イン・レジデンスの中でも最も名高いもののひとつです。その主な役割は、工芸から視覚芸術、パフォーマンス・アート、デジタル・アートに至るまで様々な芸術分野間のよりよい相互理解を目指したリサーチプログラムを通して、アーティストのモビリティを支援していくことです。

2014年より主要メセナのベタンクール・シュエーラー財団の支援を受け、多種多様なセクターとの協働関係の中、卓越したプロジェクトを実施しています。

ヴィラ九条山

(担当: 鴻池 阜 / 制作・パートナーシップ
担当)
satsuki.konoike@institutfrancais.jp

www.villakujoyama.jp/ja/
facebook.com/VillaKujoyama/
twitter.com/villakujoyama
instagram.com/villa_kujoyama/

ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

ゲーテ・インスティトゥートは、ドイツ連邦共和国の公的文化機関で、世界各地で文化活動を行っています。京都のゲーテ・インスティトゥート(旧称:ドイツ文化センター)は、1963年に開設され、文化芸術関連の様々な催しや、ドイツ語コースなどを行ってきました。

2010年秋の改装工事を経て、2011年4月より、ドイツの招聘アーティストと日本の芸術家の出会いの場であるアーティスト・イン・レジデンス『ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川』となりました。建築、美術、舞台芸術、デザイン、文学、音楽、映画、文化芸術論・批評などの分野で活躍するドイツの芸術家を対象とし、年間12組を招聘して、3か月間、日本に滞在しながら創作活動を行う機会を提供しています。

これまで10年間で130人以上のアーティストがヴィラ鴨川に滞在し、日本の文化シーンと交流を図りながら、リサーチや創作活動を行っています。



ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

(担当: 山岡純子 / 文化部)
Junko.Yamaoka@goethe.de

www.goethe.de/villa-kamogawa/ja/
www.facebook.com/goetheinstitut.kyoto/
www.youtube.com/user/goethekyoto
www.instagram.com/goetheinstitut_villakamogawa/

京都芸術センター

京都芸術センターは、京都市、芸術家その他芸術に関する活動を行う者が連携し、京都市における芸術の総合的な振興を目指して2000年4月に開設されました。

多様な芸術に関する活動を支援し、芸術に関する情報を広く発信するとともに、芸術を通じた市民と芸術家等の交流を図ることを目的としています。

具体的な事業として、展覧会や茶会、伝統芸能、音楽、演劇、ダンスなどの舞台公演やさまざまなワークショップ、芸術家・芸術関係者の発掘、育成や伝統芸能の継承、創造を目指す先駆的な事業のほか、制作や練習の場である「制作室」の提供、アーティスト・イン・レジデンス・プログラムでの国内外の芸術家の支援などを実施しています。このような活動をとおして、京都芸術センターは、新しい世紀の都市文化の創造拠点となることをめざしています。



京都芸術センター

(担当:勝治真美 / プログラム・ディレクター)
katsuya@kac.or.jp

www.kac.or.jp/

facebook.com/kyotoartcenter

twitter.com/Kyoto_artcenter

instagram.com/kyotoartcenter/

オランダ王国大使館

日本とオランダの関係構築において要となる存在。両国は4世紀以上にも渡る関係を持ち、政治、ビジネス、文化、科学の分野で活発な交流を続けている。

在日オランダ王国大使館の文化政策は、日本におけるオランダの芸術文化の振興と、オランダと日本の文化交流の促進にある。

特に、オランダのアーティスト、デザイナー、建築家の日本での活動に積極的に取り組んでおり、アーティスト・イン・レジデンスはオランダのクリエイターを日本に紹介する良い機会と見なし、重点的に支援している。



オランダ王国大使館

(担当:バス・ヴァルクス / 政策オフィサー)
bas.valckx@minbuza.nl

www.orandatowatashi.nl/

facebook.com/OrandainJapan/

twitter.com/OrandainJapan

instagram.com/NLinJapan/

AIR ON AIR オンラインシンポジウム 協力

AIR Network Japan

アーティスト・イン・レジデンス(AIR)事業に取り組む団体・個人が連携し、AIRのプレゼンスの向上、情報発信、国内外との共同プロジェクト推進などを担う、相互の<中間支援的ネットワーク>を目指しています。

www.airnetworkjapan.com/

AIR_J

(エアージェイ)は、全国のアーティスト・イン・レジデンス(AIR)に関する情報を、日英バイリンガルで提供するウェブサイト、京都市と京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)によって運営されています。このサイトでは、日本のAIRの概要や国内外でのプログラム募集情報などを提供しています。さらに、AIR各施設・団体のネットワーク化の一助として、AIRに関するシンポジウム、インタビューやエッセイなど、AIRの最新動向も紹介していきます。